

血祭の朝 (1990)

血色清晨

THE BLOODY MORNING

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 中国

時間 100分

初公開日 不明

【解説】

第五世代の女流監督リー・シャオホン（李少紅）のデビュー二作目。フランチェスコ・ロージによっても映画化されたガルシア・マルケスの『予告された殺人の記録』が一応の原作となっている。しかし、李は中国農村を舞台にし、自由な脚色を施し、ほとんど独自の物語に作り替えた。主題となるのは、未だ農村では一般的な風習とされる“換親”という婚姻体系で、娘のある二軒の家が互いの娘を各々の息子に迎える、一種の売買婚のこと。

主人公・紅杏は村の成金・強国に換親で嫁ぐが、初夜の晩、処女でなかったと実家に突き返され、同じく換親で、強国の不具の姉を嫁にした長兄・平娃は妻を取り上げられ半狂乱となる（貧しい農家の跡取りで40近い彼としては最後の結婚のチャンスだったのだ）。兄たちは妹の処女を奪った相手を、親友を通じてつきあいのあった小学校教師の明光と決めつけ彼を惨殺する…。

これを原作のように回想形式（本作では郡捜査官が語り手となる）で、封建的な村社会が、都会出身のあか抜けた青年教師を異端者の生け贄として“血祭り”にあげ、共同社会全体に関わる不祥事の埋め合わせをしたのだと語る、力強い問題提起をはらんだ作品。陰惨きわまりない話だが、降りそそぐ朝日の中の殺害シーンなど、静けさのうちに凄まじい暴力がきらめき、この監督の活劇に対する並々なめセンスを感じさせる。と思ったら、なんと彼女のデビュー作は大ヒットを記録したアクション映画（“銀蛇謀殺案”とタイトルを読むだけでも何やら興奮させる）だったのだ！

【クレジット】

監督	リー・シャオホン	Li Shaohong
原作	ガブリエル・ガルシア＝マルケス	Gabriel Garcia-Marquez
脚本	シャオ・マオ	
	リー・シャオホン	Li Shaohong
撮影	ツォン・ニエンピン	
美術	シー・チエントウ	
音楽	モン・ウェイトン	
出演	コン・リン	
	フー・ヤーチエ	
	コン・チャオホン	
	チャオ・チュン	